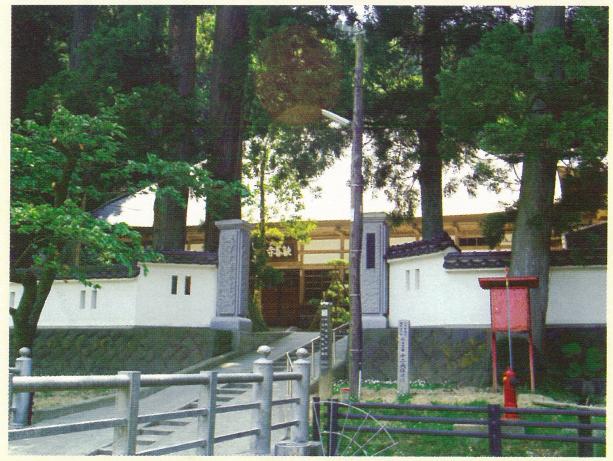


きよがわ



⑯ 欽喜寺

庄内百觀音札所第5番の本靈場。「十二天像屏風」は町指定文化財。寺宝として釈迦三尊像、山岡鉄舟・高橋泥舟の書及び丸木位里面伯の襖絵ある。



⑰ 清河神社・清河八郎銅像

明治41年、正四位を贈られたのを機に、神社として祀り、完成まで10年の歳月を要した。銅像は鶴岡市出身の彫刻家・小林誠義が製作。



⑱ 清河八郎記念館

清河八郎没後100年忌を記念して建てられたもので、遺品を保管・展示している。山形県並びに町指定文化財に指定されているものが多数ある。

① 莊内藩清川関所跡

最上川交通の宿駅で、莊内藩で関所を置いた。本陣と番屋があった。関所は今の学校のある場所で、現在は榎の木がある。

③ 明治天皇行在所

明治14年、明治天皇が行幸した際の行在所で、清川学校の続きに洋風二階建ての玉座室を増築した。

④ 御茶屋稻荷神社

莊内藩関所の屋敷続きに御茶屋（本陣）があったが、その時に神社が祭られていたものを現在の地に移され、毎年9月に例祭を行っている。

⑤ 戊辰の役古戦場

立谷沢川を挟んで御殿林、北楯大堰、腹巻岩、蘭山で戦われた。官軍の主陣地は腹巻岩で、莊内軍は御殿林であった。

⑥ 清河八郎生家跡・楽水楼跡

明治維新に火をつけた男「清河八郎」の生家跡。楽水楼は清河八郎の父・雷山が建てた書斎であり、迎賓館でもあった。

⑦ 大庄屋跡

大庄屋跡（齋藤家）は、藤原秀衡の子孫と伝えられている。建物は歴史民俗資料館に一部移築し保存されている。

⑨ 十六の碑

慶長17年、北楯堰を掘る時、山崩れで16人が犠牲になった。その靈を祀って碑が建てられた。

⑩ 三社様

慶長年間、北館大学が北楯堰を開さくする時、王子の随臣3人が殉死した。その靈を祀って三社様という社殿を建てた。今では小さな祠として残っている。

⑪ 不動院

御諸皇子神社の社務所。天台宗、真言宗の修驗場であり、羽黒山登山の清川口として栄えた。明治に入り神社として現在に至る。

⑬ 扇松野グランド

時代不詳だが尼寺があって、一帯を尼焼と称していた。昭和になってグランドにしたが、戦中は畑にしていた。戦後再びグランドに拡張した。今はグラウンド・ゴルフ場として地区民に親しまれている。

⑮ 戊辰の役莊内軍墓

戊辰の役で戦死した莊内軍の戦死者を祀ってある。

⑯ 義民の碑

天保6年、清川村の百姓16人が、前年の凶作で村の酒屋を襲った。その罪で斬罪に処された15人の墓。

⑰ 清河八郎墓

菩提寺である欽喜寺にある。墓表は山岡鉄舟の書で、両親及び熊三郎の墓表は高橋泥舟の書である。

⑲ 孝子・志田喜平治墓

明治14年、明治天皇が東北御巡幸の時に、最上川を本合海から御渡船された玉座船の船頭を務めたので、郷土の誇りとして建てられた。

㉑ 官軍墳墓

戊辰の役で戦死した長州藩松本茂太郎、内田百合熊が葬られている。

㉒ 叶宮猿田彦大神

旧羽黒町川代の叶宮様より勧請したもので、嘗ては中村熊谷神社参りの通り道で、道中安全の神として信仰を集めた。現在も崇敬者が多い。

㉓ 御殿林

亨保年中、防風林として藩主が植えたもので、清川を風水害から守ると共に、戊辰戦争の古戦場としてゆかりの深い林である。莊内軍は御殿林に本陣を布いて薩長と戦ったので、老木から砲弾がでてきた。

昔、この所に御殿とも言った藩主の宿泊所があったために、この名で呼ばれた。

㉔ 長者沼（中島）

長者沼は中島集落の裏の高盛山の中腹にあり、一人の長者が住んでいたという長者伝説があるところから「長者沼」と呼ばれるようになった。

㉕ 豊受神社

興屋村観音堂・明神堂が明治の初めの神仏分離の折に、観音堂は豊受神社となったものと思われる。

歴史と 文化の 薫るまち



② 芭蕉句碑

芭蕉が「五月雨を集めて早し最上川」の句を詠んで清川に上陸した。昭和31年、清川関所跡に建てられた。



⑧ 塚の神の石祠

昔から伝わる民間伝承「塚の神」は清川各町内で祭られているが、清川全体の塚の神の石祠である。



⑫ 御諸皇子神社

源義経が武蔵坊弁慶ら一行を従えて旅の一夜を明かした神社として有名。町指定文化財の木造金剛力士立像のほか木造狛犬がある。

清川地区振興協議会

お問い合わせ先

清川公民館 0234-57-2211

